

鯖江型の教育で

豊かな人間性を(2)

子どものころから越前漆器やめがね枠、織維などの地場産業になじませよう。ものづくりの現場を目で見て肌で触れて体験させ、自分が住んでいる地域の実態の理解に役立たせよう。そういう新しい試みが始まりました。

市のバスに乗せて工場を見学し、製造方法や職場の実際に触れるなど校長の選択で、総合的な学習を認め1300万円の予算を盛りました。

教育の3つの要素は、知識を広げる知育、体を鍛える体育、そして人間性を磨く徳育とされています。



漆器に親しむ子どもたち

その源となるのは家庭と地域社会に生きる豊かな人間愛です。

鯖江市の人口も、65才以上が18・9%を占め、5人に1人となり、いよいよ高齢社会に入りました。

子どもからお年寄りまで、それぞれに夢を持ち、楽しく安心して暮らせる町を目指す、ファッションタウンの方向と、教育の目標を一つに結びつけていきます。子どもたちにその実態を正しく理解してもらおう。自分がどのような生きることが必要です。

IT推進支援助手を置いて、小学5年から中学生にパソコンを教え、さらに専門のスタッフを派遣して高度な内容を教えています。

鯖江の保育所は22、幼稚園は7つあり、約2400人の園児を350人の先生たちが預かっています。

保育所と幼稚園の役割は異なりますが、もともと夜遅くまで預かってとか、区別を無くして、保幼の一体化を望む声も多く聞かれます。

保育所と幼稚園を一体化し、園児の小学校への移行を円滑にするための試みも、王山保育所、鯖江幼稚園の2つの間で始められようとしています。